

# 「未来を切り拓く力を育む指導の工夫」

中野区立中学校教育研究会会長

石田 重久（第二中学校校長）

学校教育、そして私たち教員について話題になることが多くなっています。三つあげれば、第一に、職業としての教員です。科学技術、特に情報技術や人工知能の発達により、将来なくなる職業とならない職業の予測の両方に教員があげられています。コンピュータやロボットによる勉強や授業の支援などができるようになり少子化で、知識の伝達しかできない教員は生き残れない。一方では、人工知能やロボットが進化しようと、「人を育てる」ということは人間にしかできないので、教員の代替えの可能性は低いというものです。各種の子どもたちの将来なりたい職業の調査では、「教員」が上位にあげられていることは学校現場として励みになります。

第二は、教育内容です。中学校では、今年度より「特別な教科 道徳」となりました。道徳が教科として格上げになつたかのように報道されますが、道徳は、各教科・特別活動・総合的な学習の時

間とともに、教育の柱の一つとしての役割は変わっていません。今までの道徳教育と基本的な考え方は同じですが、「教科」となり「教科書」を使用し「評価」をおこなうようになりました。評価は、数値によるものではなく、学習状況や成長の様子を文章で記述します。これらの道徳の授業は、ただ教えるのではなく、自分のこととして「考える」「議論する」ことに重点が置かれます。

第三は、学習指導要領（指導内容）についてです。「ゆとり世代」といわれることがあります。「詰め込み」といわれた知識量偏重教育から、ゆとりある充実した学校生活の実現として、学習負担を適正化して、思考力を育てることに重点が置かれたものです。「ゆとり」といって批判されることがありますが、これらの方としても思考力、判断力、表現力を育てることは「ゆとり」といわれた時と変わっていません。そのた

る」ことが求められ、「主体的・対話的な深い学び」といわれる授業改善が求められているのです。

公立小・中学校では、国・東京都・児童・生徒の学力の実態を分析し、

中野区の学力調査の結果を活かして課題に応じた具体的な方策を示す

「授業改善推進プラン」を作成し、

その実施・評価・改善のサイクルを確立し授業の充実を図っています。

そのために、中野区には、区立学校教員の研究会があります。小学校に中野区立小学校教育研究会（通称『小教研』）、中学校に中野区立中学校教育研究会（通称『中教研』）として、

中野区の教育活動と生徒のために、研究活動を推進し、教員の資質向上と授業・教育活動を改善・充実させています。中野区の教育理念を具現化するために、思考力、判断力、表現力等を育み、パソコン・電子黒板などの電子機器を活用するなど「未

来を切り拓く力を育む指導の工夫」による授業実践を行つております。

中野区教育振興会の皆様には、長年にわたり両研究会の研究活動に、

ご理解ご協力をいただき、多大なるご支援をたまわっていますことを、

ご協力を感謝申し上げます。

ありがとうございました

中野区教育振興会奨学資金の給付のため左記のとおり賛助金をいたしました。

一、金 396,000円

東京中野ライオンズクラブ 様  
ご協力を感謝申し上げます

令和元年度

## 教育功労者表彰式

本会では、永年にわたり教育に尽力され、その功労が特に顕著な方々について「教育功労者表彰」を行っています。

今年度は、次のとおり表彰式を開催いたします。

日時 11月12日(火) 午後4時  
会場 中野区役所 7階  
第8・9・10会議室